



# にしのみやフォーラム

## 『共生のまちづくり』に向けて

“地域共生” “多様な主体による生活支援”・・・制度施策からも、こんな言葉が聞こえています。  
では、地域共生とはなにか？ 住民主体の活動、多様な主体の連携とはどういうことなのか？

これまで、この兵庫県西宮市で培ってきた地域福祉実践「住民の手による地域福祉活動実践」  
「障がいのある人がこのまちで暮らしを拓いていく実践」「安心して暮らし続けるための権利擁護支援の取り組み」「多様な主体の連携協働」「最期のときまで自分らしく生きるためのつどい場の展開」などをおして、真の『共生のまちづくり』に向けて、西宮市民のみなさん、そして全国のみなさんと、ともに考え、ともに進んでいく第一歩としたいと思います。

開催日

**2015年 3月 7日 土**

会 場

**西宮市民会館（全体会・分科会）**

西宮市役所東館 8 階ホール（分科会）

西宮市職員会館 3 階ホール（分科会）

定 員

1, 000 名

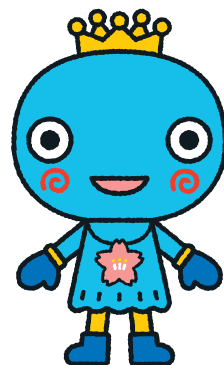
主催 **にしのみやフォーラム実行委員会**

社会福祉法人 西宮市社会福祉協議会

NPO 法人 つどい場さくらちゃん

NPO 法人 全国コミュニティライフサポートセンター

後援（予定） 西宮市、西宮市民生委員・児童委員会、西宮市地域自立支援協議会、  
コープこうべ第2地区活動本部、兵庫県社会福祉協議会



西宮市観光キャラクター

**みやたん**

（無）第 2014199 号

# にしのみやフォーラム『共生のまちづくり』に向けて

## プログラム

9:00 ～

受付

10:00 ～ 12:30

分科会 1 ～ 6

12:30 ～ 13:30

休憩

13:30 ～ 13:45

開催にあたって 西宮市長 今村 岳司

13:45 ～ 16:15

全体会 まじくる ディスカッション

### 『共生のまちづくり』に向けて

西宮の“地域づくり”“ふくし”の前線で活動をしている  
実践者、社協、市・国行政が一同に会し、

『共生のまちづくり』に向けて、語り合います。

まさに住民も行政も混ざり合い、  
住民主体、多様な活動体の連携協働、だれもが役割をもって生きる社会づくりなど、  
「共生のまちづくり」のめざすべき姿と、今後の展開について、考えていきます。

※「まじくる」とは  
“混ざり合う”“ごちゃ  
まぜになる”など、違  
いを持つ様々な主体が  
積極的に混ざり合うと  
いう意味の造語

#### 《登壇者》

NPO 法人全国コミュニティライフサポートセンター 理事長  
西宮市社会福祉協議会 第8次地域福祉推進計画策定委員  
西宮市権利擁護システム推進委員会 委員長  
西宮市社会福祉協議会 事務局長  
厚生労働省 障害福祉課 地域生活支援推進室 障害福祉専門官  
西宮市健康福祉局 局長  
西宮市地域自立支援協議会 会長  
神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 教授  
NPO 法人つどい場さくらちゃん 理事長

池田 昌弘  
川東 美千代  
北野 誠一  
清水 明彦  
曾根 直樹  
田中 厚弘  
玉木 幸則  
藤井 博志  
丸尾 多重子

(五十音順)

16:15 ～ 16:30

フィナーレ・セレモニー

17:30 ～ 19:00

交流会（会場：西宮市民会館） 定員 100 名

## 分科会 1

### みんなでともにすすめる地域の“あんしん”

～住民、学生、企業等との連携協働による「西宮」のまちづくり～

単身世帯の増加、人付き合いの希薄化が社会問題となっている一方で、災害を契機に日頃からのつながりや安心して暮らせるまちづくりの大切さが見直されています。阪神淡路大震災から20年が経過した西宮市で、地域住民、当事者団体、学生、協同組合など多様な団体が連携し、様々な“あんしんづくり”の取り組みがすすめられています。他市の事例も含めて、どんなときも機能する地域の“あんしんづくり”を考えます。

#### パネラー

- 住民同士の見守り活動 コープこうべと協働した配食実践へ  
社協香櫨園分区 分区長 北川 悦久
- 大学生と協働した『お片づけ隊』  
社協鳴尾東分区 分区長 坪倉 勝  
武庫川女子大学 文学部心理・社会福祉学科 社会福祉コース 学生
- 互いを知り地域でつながるための「地区懇談会」  
西宮市手をつなぐ育成会 会長 小川 加代子
- ひとり暮らし高齢者による地域づくり  
パープルフレンズ 京都市北区紫野学区社会福祉協議会 会長 林 正則  
(パープルフレンズ支援者)

#### コーディネーター

佛教大学 福祉教育開発センター 講師 後藤 至功

## 分科会 2

### 住みたいまちだけでいいの？みんなが住みよいまちへ

～障害のある人もない人もともに暮らしやすい「西宮」のまちづくり～

西宮では、これまでどんな障害があってもこのまちで暮らしていく取り組みを進めてきました。当事者・支援者・行政の視点を交えて、今後誰もが暮らしたいと思えるまちへ発展していくためにどうあるべきか探っていきます。

#### パネラー

- 青葉園 通所者 西尾 敏枝  
園 長 大谷 真希子
- メインストリーム協会 沖田 大
- ハートフルクラブ 障害者相談支援センター輪っふる ピアサポーター
- 西宮市健康福祉局 福祉部長 太田垣 博志

#### コーディネーター

西宮市地域自立支援協議会 会長 玉木 幸則

#### 助言者

大阪府立大学 地域保健学域 教育福祉学類 准教授 三田優子

## 分科会 3

### For から With へ 私の役割、私の居場所

～当事者や家族、住民一人ひとりが主人公になる「西宮」のまちづくり～

特別な誰かのために活動するのではなく、自分自身が主体的にやりたい活動をすることが、その活動を必要としている人を巻き込み、当事者や家族、そして住民一人ひとりがその活動の主人公になる。制度の狭間になりがちな発達障害や若年性認知症の方々、重度障害者、そして地域住民による活動展開を“居場所”をキーワードに考えます。

#### パネラー

- 発達障害のある子どもたちの居場所づくり  
障害のある子をもつ親の会「ゆうきっこクラブ」代表 野草 美千代
- 自宅開放型「つどい場」から住民同士の支え合いへ  
つどい場おむすびネット 代表 赤石 貞子
- 若年性認知症交流会「わかみや会」  
高齢者あんしん窓口高須 認知症地域連携推進員 齋藤 環
- 重い障害のある人の地域での取り組み  
青葉園

#### コーディネーター

桃山学院大学 社会学部 社会福祉学科 教授 松端 克文

## 分科会 4

### わがまちを わが手でつくり 支える

～住民主体の地域福祉活動実践による「西宮」のまちづくり～

西宮市では、1960年代から、住民組織として社協支部・分区（地区社協）が組織され、住民による地域福祉活動が展開されています。また、障害のある人と住民とともにつくる畑の活動や、若者も地域に根ざした活動に関わりながら、生活支援へと発展する活動も産まれてきています。活動者の思い、実際の活動から、住民の力で地域活動をつくり、互いに支え合う「住民主体」の地域づくり・地域福祉活動のあり方を考えます。

#### パネラー

- 住民がつくる わがまちの「地区福祉計画」  
社協東山台分区 分区長 藤原 真理子
- 住民同士の支え合い拠点「地区ボランティアセンター」  
北夙川・苦楽園地区ボランティアセンター 代表 篠本 令子
- 住民と障害のある人がともにつくる畑  
社協山口分区 分区長 梶 泰享
- 地域の多世代交流スペースから住民の手による生活支援へ  
鳴尾東ふれあいまちづくりの会 NPO 法人なごみ 事務局長 田村 幸大

#### コーディネーター

神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 教授 藤井 博志

## 分科会 5

### 自分らしく このまちで生きるために

～権利擁護支援からすすめる「西宮」のまちづくり～

西宮市では、高齢者も障害者も本人が「自分らしく」「地域で普通に」「みんなと一緒に暮らす」ことを可能にする仕組みづくりを目指して、平成23年権利擁護支援センターを開設しました。センター開設以来、支援ニーズは年々複雑化しており、虐待への対応や権利侵害に対する成年後見制度の利用など、行政、法律職、地域包括支援センター等の専門機関や地域住民との連携・協働による対応が一層求められています。

#### パネラー

- 西宮市職員
- 西宮市高齢者あんしん窓口（地域包括支援センター）職員
- 地区ボランティアセンターコーディネーター
- 西宮市社会福祉協議会職員

#### コーディネーター

西宮市権利擁護システム推進委員会 委員長 北野 誠一

#### 助言者

西宮市権利擁護システム推進委員会 副委員長 弁護士 福島 健太

## 分科会 6

### NPO 法人つどい場さくらちゃん

### か（介護）い（医療）ご（ご近所）学会

～最期まで生き抜くことに伴走する 介護と医療と「西宮」のまちづくり～

つどい場さくらちゃんは、介護家族やご本人、介護職・医療関係者、行政などさまざまな立場の人が、いつでも駆け込めて、同じ立場でとことん話せる場であり、「つどい場」の原点でもあります。これまでつどい場さくらちゃん主催でおこなってきた『か（介護）い（医療）ご（ご近所）学会』を、今回はにしのみやフォーラムの一環として実施します。

人の「最期」から目をそむけない、認知症と診断されても、その人はその人らしく生きることを、だれも妨げることのない介護・医療・地域の実現に向けて、今回は特に介護と医療の切り口から、実践者が語り合います。

### ドキュメンタリー映画「毎日がアルツハイマー2」上映

#### 放談

- 映画「毎日がアルツハイマー2」監督 関口 祐加
- 医療法人社団祐和会理事長・長尾クリニック医院長 長尾 和宏
- 日本医科大学 精神神経科 講師 上田 諭
- つどい場さくらちゃん 丸尾 多重子



# オフショントゥアー

にしのみやフォーラム開催の前後で、活動実践の現場を見学等いただくプログラムです。

※受付は先着順とさせていただきます。

ツアー参加者には、フォーラム参加券と併せて、ツアー参加券及び詳細をお送りします。  
参加費は当日徴収します。

【3月6日（金）】

	ツアープログラム	スケジュール	参加費・定員
1	<b>地区ボランティアセンター見学</b> <b>「芦原地区ボランティアセンター ふるさと」</b> 「地区ボランティアセンター」は、阪神・淡路大震災の経験をきっかけに、住民同士の支え合い拠点として、西宮市内32カ所に設置・運営されています。芦原地区ボランティアセンターふるさとを見学いただきます。 場所：西宮市芦原町 1-20 芦原デイサービスセンター内	10:30 JR西宮駅集合 徒歩移動 10:45 現地到着 活動紹介・懇談 12:00 終了	100 円 10 名
2	<b>つどい場見学「つどい場さくらちゃん」</b> つどい場の発祥といえる「つどい場さくらちゃん」。介護家族や介護職も駆け込めるつどい場。普通の家で、まるちゃん手づくりのごはんを囲み、本音のしゃべくり合いができる場です。 場所：西宮市今在家町 1-3（阪神西宮駅 市役所出口すぐ）	12:00 現地集合 代表丸尾さん・ 介護家族等と懇談 ※昼食あり 随時解散 ※参加時間相談可	1,000 円 10 名
3	<b>つどい場見学「まちCafe なごみ」</b> 地域住民で構成する「鳴尾東ふれあいまちづくりの会」が母体となり、その運営を若い世代が担い、子どもから高齢者までだれもがつかえる場として、また、西宮市の生活支援サービスのモデル指定を受け、日常生活支援をとあした高齢者支援の場となる活動展開を始めています。 場所：西宮市東鳴尾 2 丁目 16-19-102	13:30 西宮市総合福祉センター集合 14:00 現地到着 見学・説明 15:30 終了 16:00 解散 （総合福祉センター）	100 円 5 名
4	<b>青葉園 見学</b> 重い障害のある人たちの地域生活拠点「青葉園」。どんなに障害が重くても地域で一人ひとりが主体者として進めてきた取り組みの現場を見学いただきます。 場所：西宮市染殿町 8-17（JR 西宮駅から徒歩 10 分） 西宮市総合福祉センター内 青葉園	13:00 現地集合 職員による説明。 青葉園・とことこ 見学・懇談 15:00 終了	100 円 10 名
5	<b>西宮市社協 福祉学習の取り組み</b> <b>障害者スポーツ「ボッチャ」体験</b> 西宮市社協で取り組んでいる福祉学習・障害者理解啓発を目的とした障害者スポーツ普及について紹介します。また、障害者スポーツ“ボッチャ”の体験もしていただきます。 場所：西宮市染殿町 8-17 西宮市総合福祉センター体育室（JR 西宮駅から徒歩 10 分）	13:15 現地集合 西宮の福祉学習、 障害者スポーツ 普及の取組み紹介 ボッチャ体験 15:15 終了	無料 30 名

【3月7日（土）】 にしのみやフォーラム終了後

6	<b>青葉園はどこへいこうとしているのか</b> <b>清水明彦と富田昌吾と夜な夜な対談</b> フォーラム終了後、重い障害のある人たちの地域生活拠点「青葉園」の空間で、「青葉園」とともに 40 年 清水西宮市社協事務局長、寝屋川市民たすけあいの会富田さんと青葉園通所者や北野青葉園運営委員長も加わり、語り明かします。 場所：西宮市染殿町 8-17（JR 西宮駅から徒歩 10 分） 西宮市総合福祉センター内 青葉園	20:00 開会 22:00 頃 閉会予定	1,000 円 （ドリンク付） 30 名
---	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------	----------------------------

# にしのみや (西宮市社協) 地域福祉の あゆみ

今、国をあげて『地域包括ケア』の推進が叫ばれ、住み慣れた地域で自分らしく暮らしていくためのまちづくりの手腕が各自治体で問われています。

しかし、住民による互助活動を、支える側を「援護者」または「社会資源」ととらえ、支えられる側を「要援護者」とするように、相互に対象化し、システムづくりに奔走している地域が多いことも事実です。

兵庫県西宮市の福祉は、「主体」にこだわり、実践してきました。当事者主体、住民主体のさまざまな活動が継続、発展し、相互に影響を与え合い、そしてエンパワメントされていく。それは「一方向の支援」ではなく、「お互いに作用し合い、エネルギーを生み出す活動」といえます。

そんな西宮の福祉のキーポイントを、いくつかご紹介しましょう。

## 住民主体の地域福祉活動

関連分科会 1・4

西宮市には、地区社協組織として、旧村単位の9つの支部と、その中に概ね小学校単位に33の分区があり、自治会や民生委員・児童委員、地域関係団体などと連携しながら、住民が中心となって組織されています。

それぞれの支部・分区は地域の実情に合わせて、ふれあい昼食会、ふれあい・いきいきサロン、子育て地域サロン等交流活動、広報紙の発行、学習会・研修会などが活発に行われ、また、20年前の阪神淡路大震災をきっかけに、住民同士が支え合う拠点として、地区ボランティアセンターの設置運営がひろがりました。

地域住民でつくる「地区福祉計画」も1989年（平成元年）から策定しています。現在、各地区で第7次地区福祉計画（2010～2014年度）が策定され、活動が進められています。

住民の方々による日頃の活動や、地区福祉計画策定作業から、地域で抱えている課題を浮き彫りにし、住民と専門職がともに協議をする「地区ネットワーク会議」（2009年）、安心生活創造事業の実施、あんしんキット配布をきっかけとする見守りや生活支援など、新たな活動にもつながってきました。また、学生との協働、コープこうべとの協働など、さまざまな主体との連携による地域活動の展開が生れてきています。

関連分科会 2・5

## 障害のある人たちが地域の暮らしを拓く

重い障害のある人の地域生活拠点「青葉園」は、1981年に西宮市独自の事業として、西宮市社協が運営委託を受け開設しました。

開設当初から、一人ひとりの個性に応じた青葉園でのさまざまな日中活動「自己実現プログラム」、家庭での介助が困難になっても地域で暮らし続けるための「自立プログラム」、地域住民の一員としての社会参加を進めていく「社会参画プログラム」の3つのプログラムを柱として、活動を続けてきました。当事者が暮らす地域の公民館に出かけて地域住民と交流を深める「青葉のつどい」や、住民とともにリサイクルサークルを結成するなど、地域の一員としての活動展開も進められています。これらのプログラムは、本人の自己実現を目指し、地域社会との関わりのなかで一人の市民として生きていくための暮らしの基盤づくりにつながりました。

全市的には、2007年度に「西宮市地域自立支援協議会」が発足し、また、2013年度には、各障害関係事業所がそれぞれ相談窓口を設けていたものを、障害種別に関わらず一括してエリア制をもって対応する「障害者総合相談支援センターにしのみや」を、西宮市から西宮市社協が委託を受け、本人中心の相談支援をすすめました。一人ひとりの思いを実現するために、本人とともに本人中心支援会議を持ち、本人中心支援計画を作成しています。本人の願う生活の全体像を把握し、一人ひとりが必要とする支援の輪を地域につくり出し、まちづくりをすすめています。





## 自分発 居場所づくり・役割づくり

関連分科会 3・4・6



自分自身が主体的にやりたい活動をすることで、その活動を必要としている人を巻き込み、当事者や家族、一人ひとりが主人公になっていく、そんな当事者活動が地域福祉の推進にはとても大切です。制度の狭間にある発達障害、若年性認知症への取り組みが、当事者自らの活動として、西宮市内ですめられています。

また、自宅や空き家などを活用して、人々が集う「つどい場」は、2004年介護者家族をはじめとした『つどい場さくらちゃん』が誕生し、現在、自宅等を開放して、近隣の住民の方々が集まったり、若者が中心に子どもから高齢者まで誰でも集える場など、市内10か所以上に広がりました。

つどい場の運営主体はNPO法人、ふれあいまちづくりの会、個人とさまざまですが、住民同士がより身近につながり、開設する人の思いと関係性を大切にした場となっています。2014年には、市内のつどい場実践者同士の交流や情報交換・情報発信を行うことを目的に、「西宮市つどい場ネットワーク」を発足し、西宮市も、つどい場づくりの支援をしています。



関連分科会 2・5

## 安心して暮らし続けるための権利擁護

重い障害のある人の「このまちで自分はこう暮らしたい」という思いを実現してきた西宮市ですが、次に課題となったのは、日常的な金銭管理、一定のまとまった財産管理の必要性、成年後見制度の利用支援など生活上のさまざまな不安でした。

また、障害者から高齢者まで広く、債務への対応や消費者被害や虐待などの権利侵害、触法行為への対応、社会的な孤立状況やセルフネグレクトへの支援ニーズなどへの対応が必要となりました。そこで、弁護士、司法書士、社会福祉士などが、当事者の意思に基づいた地域自立生活を社会的に位置づけて守ろうと、NPO法人「PAS ネット」が立ち上がりました。

2011年には、PAS ネットと西宮市社協が運営主体となり、西宮市権利擁護支援センターが発足しました。権利擁護支援センターでは、重い障害のある人だけでなく、高齢者も子どもも、誰もが地域で暮らし続けるために、関係機関とのネットワークを生かした権利擁護支援システムづくりに取り組んでいます。

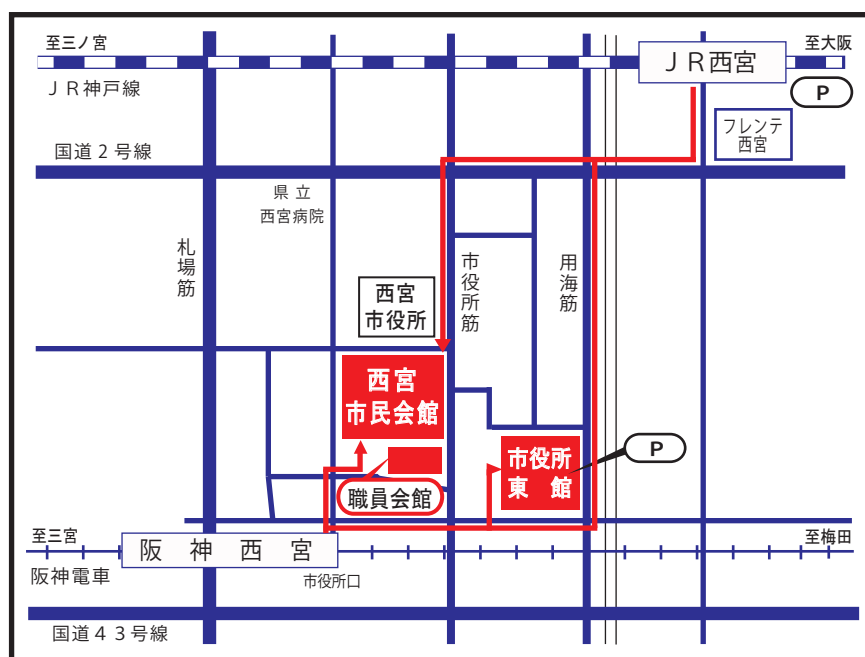


## 『共生のまちづくり』に向けて

2015年度、西宮市社協では第8次地域福祉推進計画が始まります。

キーワードは、「共生のまちづくり」。人と人がお互いの存在を尊重し合う地域社会をつくっていくこと、そしてそれをおして一人ひとりが自分の役割を持てること。人がこの地域で生活していくなかで、支援する、されるの一方的な関係性ではなく、誰もが誰かを支え（助け）、誰かに支えられ（助けられ）ている関係性の中で、自分らしく、自分の役割を持って生活することで、地域社会を豊かに変えていくことをめざしています。

そして、2015年秋、誰もが住み慣れたまちで自分らしく暮らしていけるよう、必要な相談支援や生活支援を兼ね備えた、『(仮) 地域共生館』が西宮市中前田町に誕生します。『地域共生館』は、障害のある人が通所する場や、一時利用住居機能、自立体験機能、居場所機能など、相互に連動し、障害、高齢、子ども等の区別なく、みんなが役割をもって展開する共生のまちづくり事業の拠点となります。また、カフェ、フリースペース、多目的ホール、集いのスペースなど、誰もが集い、相互にエンパワーメントされる場をつくり、その取り組みを全市的に展開できるように発信する場とします。



### 《アクセス方法》

#### ■阪神電車利用の場合

大阪方面から 阪神梅田駅→西宮駅（15分）

神戸方面から 阪神三宮駅→西宮駅（15分）

※阪神西宮駅 市役所口すぐ

#### ■J R利用の場合

大阪方面から JR 大阪駅 →西宮駅（12分）

神戸方面から JR 三ノ宮駅→西宮駅（14分）

※J R西宮駅から徒歩 15分

- 開催日時 2015年3月7日（土）10:00～16:30
- 会場 西宮市民会館（全体会・分科会） 兵庫県西宮市六湛寺町 10-11  
西宮市役所東館8階ホール（分科会） 兵庫県西宮市六湛寺町 10-21  
西宮市職員会館3階ホール（分科会） 兵庫県西宮市六湛寺町 3-1
- 定員 1,000人
- 参加費 3,500円（資料代含）  
交流会 3,000円（定員100名・参加費当日徴収）

- 参加申込書と参加費振込確認次第、参加券を郵送いたします。  
グループでお申込みの方には、代表者に一括して送付します。
- 昼食のお弁当予約を受け付けております。1食（お茶付）800円です。
- オプションツアー参加希望の方は、参加申込書にてお申し込みください。  
ただし、定員に達した時点で申し込みを締め切らせていただきます。  
各オプションツアーの参加費は、当日徴収させていただきます。

### 参加費振込先

### 申込締切日

ゆうちょ銀行振替口座 口座番号・記号

00990-3-166081

加入者名 にしのみやフォーラム実行委員会

2015年

2月16日（月）

※振替手数料は受取人が負担しますので、郵便局窓口にて 赤の振込取扱票でお支払ください。

### お問い合わせ先

西宮市社会福祉協議会 地域福祉課

〒663-8113 西宮市津門川町2-28 西宮市福社会館4階

TEL 0798-23-1140 / FAX 0798-23-3910

E-mail chiiki@n-shakyo.jp ・ <http://www.n-shakyo.jp/>